

留学先大学：BESIGN The Sustainable Design School 大学

氏名：篠田泰成

今月は、私が学校内に日本庭園を制作した話をしようと思います。以前の報告書にて、パートナーシッププロジェクトについて触れたことがあります。簡単におさらいすると、特定の企業と連携して進めるデザインプロジェクトで、企業から提示される課題に対して半年間かけて取り組む、というものです。

今月に私が選んだパートナーは実は企業ではなく学校組織そのものでした。学校運営に関わるマーケティングやプロモーションに携わるというかなり実践的な内容です。その中で私が担当した部門がスクールイノベーションでした。学校校舎はそもそもリノベーションであり、学校として不十分なスペース設計が散見されます。例えば使い所のない無駄なスペースや、なんの個性もない教室など、もっと学生生活が楽しくなるような。あるいは、新入生へのアピールになるような魅力を、空間的なアプローチで増やしていこう、というのがスクールイノベーションの根幹です。

そこで私が何をしたかと言えば、端的に日本庭園を学校の室内に作りました。まず、取り掛かったのは学校の魅力を客観的に分析することでした。そこで私が得た答えは大きく2つ。1つ目はサステナブルという側面に常に寄り添った教育機関であること。2つ目は生徒が28の国籍からなるグローバルな学校社会であるということ。そこから導き出されたのは、"全ての国がそれぞれオリジナルのサステナブルな文化を持っている"というスローガンでした。国の数だけ文化があり、文化の数だけサステナブルに対する考え方は異なると考えたのです。それらの文化の中でも特に空間的に実現可能性の高い文化を、実際に校舎の中に取り入れてしまおうという計画なわけです。言い換えるならば、学校そのものを国際的なサステナブル文化が集結した博物館にするアイデアです。

そのプロジェクトの始まりはやはり日本文化からでした。金継ぎが真っ先に思い浮かびましたが、空間的なアプローチという点で最終的には日本庭園を選択しました。禅の考えや侘び寂び、間の文化などを全校生徒の前でプレゼンした後で、それらの文化がどのようにサステナブルな考え方と結びついているかという話をしました。プレゼンは思いのほかすんなり成功し、実施の許可が降りました。

実は現在進行形で制作途中なのですが、大体の完成図が見えてきたので写真で確認いただければと思います。特別なことは何もなく、ただただ飾らないピュアな日本庭園を制作しています。

先日は卒業制作と卒業式、そしてそれらのセレモニーがあったのですが、そんな大切な場所に日本庭園があります。ホールのステージの背景が日本庭園というなんとも信じ難い景色ですが、実際、たくさんのお褒めの言葉をいただきました。1番嬉しかったのは、卒業式における校長先生のスピーチで、この日本庭園に触れたあと、私の名前を呼び、会場全体から拍手をいただいたことです。これほど光栄なことはありません。

この日本庭園は私が去った後も、南フランスという日本から遠く離れた地でしばらくは存在感を放ち続けるでしょう。



↑制作風景/竹壁



↑制作風景/ウッドチップ



↑制作風景/白小石



↑協力してくれた友達



←卒業式セレモニーの様子と、その背景にある日本庭園